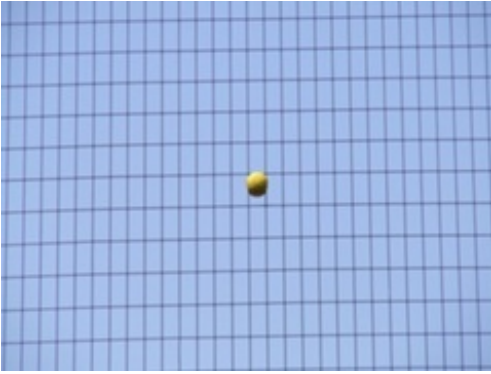




どんな球を打ったのかな？



ネットに挟まったボール。
これを見た時色々想像してしまった。
速い球を打ったのかな？
タイミングは合っていたのかな？
なーんて感じで。
あのボールはいつか誰かが取るのだろうか？
それともずっとそのままなのだろうか？
もしかしたら自然に落ちるのかな？

ニヨキニヨキ 東京スカイツリー



育つね、スカイツリー。

私は東京に生まれ東京に育って、

両親共に東京だから、東京に出来るものに余り興味が無い。

だからスカイツリーがこれだけ騒がれている意味がわかっていない。

近くまで行って見て来ようと言う気持ちにもなれないし、

完成しても1度行けばいいという感じかな。

ただ、各所から見るのは面白いね。

“ほおここからも見えるのか”って感じで。

画像のスカイツリーは隅田川に架かる永代橋から撮影。

隅田川大橋の後ろに少し清洲橋も見えているな。

ちなみに私の自宅からもバッチリ見える。

朝起きて外を見る時、

“今日はもやっているなあ”とか、

“今日はバッチリ見えるなあ”って感じで、

天候の変化を読み取るのに良い。

一番遠くてどこから見えるんだろう？

お気に入りの町 浅草橋

通っていた中学校が近かった事もあるのかな、
浅草橋と言う町が好きだ。
それ程派手な雰囲気ではないけど、
地味に楽しめるのがいい。
そんな浅草橋と言う地名は橋から来ている。
JR&都営地下鉄の駅から歩いて5分程の場所にあり、
神田川に架かっている。



浅草橋から下流方面を見ると、
神田川に架かる最後の橋、
隅田川の合流地点に柳橋が架かっている。
夜は緑に美しくライトアップされ、
屋形船が係留されている風景と相まって、
とてもいい雰囲気を作り出している。
黄昏時から夜にかけてその景色を見るのが大好きで、
用も無いのに出かけたりする。

変わらず残って欲しい東京風景である。

水を固めてみたよ 水寒天

私は趣味でミネラルウォーターの事をやっていて、アチコチに出かけては新しい製品を買い、飲んでレビューを書くという事を繰り返し、既に1350種類以上の製品を紹介してきた。そのブログ内企画で“水を食べる”と言うものをやるかどうか今迷い中なんだけど、その企画が“水を食べる”と言うもの。



水を食べるには凍らすしかないと思うが、今回は粉寒天を使って固めてみたのだ。材料はミネラルウォーター+粉寒天のみ。比較用にメジャーな製品 天然水南アルプス寒天を用意し、その味と比べると言うのが全容。色々難しい点があってどうなるかわからないけど、水と寒天だけでもサッパリ美味しく食べられるものなのだ。勿論黒蜜等をかけて食べれば更に良いだろうけど。水+寒天と言う事で食前に食べたりすればダイエットにもいいだろうし、身体にもいいだろうから、健康食としてもオススメだ。

昭和しか感じない 鈴木パン店

スカイツリーの建設で俄に活気付いたエリアに、ひっそりと昭和そのものを残す店がある。そのあたり一体がそんな雰囲気であるのだが、一際その色を濃く残しているのだ。それが鈴木パン店。



画像を見るとわかるだろうが、現代的な要素は全く無く、看板に書かれている電話番号も古いままで、頭に3がついていないのがいい感じ。



何度か訪れて実際パンを買って見たけれど、おじいさんとおばあさんの2人でやっていて、素朴な作りで安いものが年代ものの棚に並べられ、客に選ばれるのを待っているのだ。おばあさんは直ぐ横で揚げ物売っていて、それも1つ10円とか20円とかの価格設定。“これで儲けはあるのか？”と心配してしまう位。味も派手さは無いものの、美味しくて、また来ようと思ってしまう。安いからついつい買いすぎてしまうし。八広3丁目 こんにゃく稲荷直ぐ近く。正直まだ営業しているかはわからない。私もまた訪れてみようと思っている。

★星が出た それだけで幸せ

会社帰りにコンビニに寄って、
物凄く久しぶりにピノを買った。
家に帰って食事をし、
お風呂に入ってホッと一息ついた所で
ピノを冷蔵庫から取り出してパッケージを開けた。
！！！！！！



6個並んだ可愛いピノの中に
1つだけ★星型があったではないか。

なんかそれだけで幸せになった。
幸せって意外と小さな事で得られるんだなって思った。
うん、本当に良い気分だ。

古きものが壊される時寂しさを感じる 歌舞伎座



ちょっとした買い物をするため、
東銀座へ行った時に思った。

“そう言えば歌舞伎座壊しているんだ”と。
古い建物を壊して新しくするのは仕方の無い事だけど、
ずーっとずーっと当たり前に風景の中で存在していたものが
急になくなってしまふのって何だか寂しい。
なくなってしまうのではなく、建て直しなんだけどね。
ずっと前の事になるけど、
明治座も小さな頃から見慣れてきた古い建物が
近代的な大きなビルになってしまつて、
何だかとても切なく感じ事を思い出した。
古いものって無くなってからその存在感を感じるんだよね。
日常の中の古いものは、
思い出の為に撮影しておくといいかも。

ハッピー？ ハッピーローソン



横浜の大栈橋付近で

『ハッピーローソン』ってのがあったから思わず撮影。

ハッピー？初めて見た。

でもなんかハッピーになれる感じがした。

中は普通のローソンと大して変わらなかったけど、

他のローソンも全部ハッピーにすればいいのに、

そんな風に思った夏の午後だった。

昭和な感じ



群馬県の富岡製糸工場跡を見学した後、
来た道とは違うルートで駐車場まで戻ると、
そこには平成の世から取り残されたような、
昭和な感じの世界が存在していた。
どれだけの時が経ったのかわからないような自販機、
人の気配が無い細い道、
見るもの全てが古いけど新しい感じがした。
いつまでも残っているものではないと思うけど、
こうして写真に残せた事は良かったと思っている。
自分なりの思い出を残すのが写真だからね。
ちなみに画像の自販機はもう使えなかった。

つつい見ちゃうな 自販機って



旅に出ると景色とか食べ物とか、
当たり前を楽しむもの以外、
私は自販機でも楽しむ事ができるのだ。
自販機って多くは大手製品しか売ってないけど、
中にはマイナーな製品やその地方特有の製品も
売っていたりする事があって、
そのようなものを見つけると嬉しくなってしまう。
全国で同じものが売られているのは、
味が予想できて安心ではあるけども、
その地方に行ったらその地方の色に染まりたいから、
地元でのみ流通している品が欲しいと思う。
画像のように撮影しておく、
後で見返した時面白い。

ちなみに画像の自販機は、
富山県の宇奈月温泉駅前のもの。

頑張れ頑張れ！！



山の中に入って行ったとき、
倒木の所に1本だけ生えているキノコを見つけた。
よく見ないとわからない位小さく、
私自身歩いていてよく気付いたなと思った。

小さな芽とかキノコが生えているのを見ると、
なぜかわからないけど応援したくなる。
“頑張れ頑張れ！！”って。
そんな光景を見る為に私は旅をしている、
そう言っても過言では無いかもしれない。
勿論キノコを発見するだけの為に出かけているのでは無いけどね。

倒木なんてものの自体が無い場所に住んでいるから、
非日常的な光景に癒されるのかも。

ソフトクリーム合戦 凄いぞ錦帯橋

山口県岩国市の錦帯橋は
観光地として名高く、一度は行きたい場所だ。

錦川に架けられた錦帯橋周辺は、
桜の季節 息を飲む程美しくなる。
城・橋・川・花が一体となり景観を盛り上げるのだ。
ちなみに山の上にある岩国城は、
吉川広家が横山城として建てたのが始まりで、
その後取り壊しになり、復興天守が1962年に建てられた。
しかし景観を優先し、かつて建っていた位置とは違う所にある。



話が本題から逸れたが、
錦帯橋を渡るとずらーっと並ぶ土産屋の中に
ソフトクリーム屋が目立つ。
呼び込みなども盛んに行われていて、
その種類の多さについつい食べてしまう人もいるだろう。
中には100種類ありますなどと謳っている店もあり、
納豆やカレー味などと言うゲテモノまである。
流石にそのようなものには挑戦したことが無いが、
不味いのを食べるのも旅の記憶として強烈に残るかも。

ちなみにソフトクリーム屋の中の2店は
むさし と 佐々木小次郎と言う屋号である。
巖流島だけではなく錦帯橋でも戦っていたのだ！

なぜ武蔵と小次郎かと言うと、
吉川英治の小説で小次郎が岩国の出身とされているからだ。
実際は違うらしいけどね。

ボンバルディア



高知空港のボンバルディア。
トラブルが多い事でも知られていて、
流石に乗りたいたとは思わないけど、
今まで一度もプロペラ機に乗った事が無いから、
一度位は体験してみたいなあなんて思っている。
いつもこうやって空港に行くと展望台に上がり、
発着する飛行機を見てボーっとしているんだけど、
飛行場毎に特徴があって面白いね。
滅茶苦茶寂れている所もあれば、
小規模なのに頻繁に飛行機が出入りする所もある。
自衛隊と共用している飛行場もあるから、
そのような所では軍用機が見られるチャンスもある。
空港って遊びに行くだけでも結構楽しめる。
飛行機見て、食事して、お土産買って帰るだけで、
一日過ごせちゃうし。
結構オススメ！

重みを感じるなあ

東京都檜原村を旅した時の事。
車を降りてブラブラ歩いていたら、
川の方に向かう事の出来る細い道があったから、
試しに行ってみた。
暫く歩くと橋が見えてきた。
石の橋でとても貫禄がある姿だった。



近寄って見てみると、石の柱にはコケが生え、
欄干は錆び付いてしまっていたけど、
それがまたいい味を出していて最高だった。
旅をすると自分の住む地域とは違うものが見られる。
それだけでも行く価値はあると思うんだよね。

暫く橋の上で川の流れを見ながら佇んだら、
日頃の疲れがスーッと引いていくような気がした。

夜に漂う蝶 パピヨン号



最近は余り利用しなくなっちゃったけど、
以前は早朝から動ける利点を重視して、
深夜バスを選択する事があった。
色々な路線に挑戦したけど、
今まで一番きつかったのが新宿ー岐阜の
パピヨン号であった事は間違いない。
深夜バスで私が一番重要視しているのが
足を置く所の幅・広さである。
どれ位足を伸ばせるかで快適さが変わってくるからだ。
席自体の大きさもちろん重要だが、
いくら席が大きくても足を伸ばせないと厳しいのだ。
パピヨン号に乗った私は最初から“ヤバイ”と思った。
案の定岐阜まで一睡も出来ず、
ストレスで死にそうになってしまった。
結局着いてからもずっとフラフラで、
心から岐阜観光を楽しむ事ができなかったのが残念であった。
もうパピヨン号には乗らない。

地球の息吹を感じる 水は生きている



静岡県駿東郡清水町を流れる柿田川。

殆どの水が富士山に降った雨や雪が浸透し、湧き出した水で、まさに富士の恵みで成り立っている川と言えよう。

そんな湧水は公園でじっくり見る事が出来る。

国道一号線沿いにある柿田川公園では、川の底から湧き出す水の様子が見られる。

それはまさに生きているようで、眺めていて全く飽きないのだ。

水は形があるようで無いものだから、

見る度に違った顔を見せてくれるし、

もわもわ湧いているのを見ていると、

心の疲れがスッと引いていく感じがする。

地球って生きているんだね。

その水を使った豆腐や心太が土産店で売っているから、

一度試してみるといいだろう。

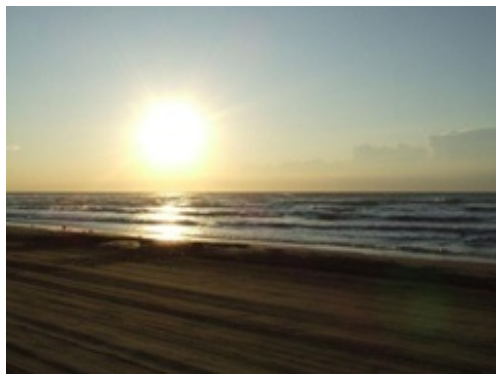
理想はその場で食べる事だけど。

波打ち際を車で走れる 千里浜なぎさドライブウェイ

石川県羽咋市に、
日本で唯一砂浜を車で普通に走る事の出来る道がある。
日本で唯一と書いたが、世界でも珍しいらしい。
金沢観光の帰りに、小松空港まで走るついでに走ってきた。



本当に波打ち際ギリギリまで走る事が出来て、
窓を開けて海の香りを感じながら走ると最高！
砂浜の幅が意外と広いから、
交通状況によっては駐車して海を楽しむ事も可能。
タイヤから伝わってくる感触が明らかに道路と違って、
それが楽しくて楽しくて。
石川県に行く事があったら是非寄ってみたい所だ。



夕方近くなると夕日も素敵に見えて、
デートスポットとしても最高だろうね。

私はレンタカーのヴィッツ？で走ったけど、
四駆でも無いし、パワーも無い車だったけど、
全く問題なく走る事が出来た。

原爆ドーム

初めて広島に行ったのは2000年だったかな。
原爆を落とされた日に近い7月の終わりだった。
広島空港からバスで広島駅まで行き、
そこから歩いて観光したんだけど、
暑くて暑くて厳しかった記憶がある。



そして初めての原爆ドームを見学し、
平和記念資料館で衝撃を受けた。
観光気分が吹っ飛び、厳粛な気持ちになった。
過去にはその地で苦しみながら亡くなった人が沢山いたと思うと、
胸が締め付けられるような気持ちになってしまった。
原爆ドームは世界遺産に登録され、
海外からの観光客も多く訪れるけど、
全世界の人に見て欲しいな。
そうそう、原爆ドームに行く前に広島城を見学したんだけど、
敷地内に生えているイチョウの木の中に、
爆心地方向だけ焼け爛れた跡が残っているものがあった。
過去の記憶をそのまま残す生々しい現実
私は言葉を失ってしまった。
もしかしたら衝撃は平和資料館や原爆ドームより強かったかも。

青空の横浜 氷川丸が映える



関東でも梅雨が開けた日、
横浜まで行って夏の雰囲気を楽しんできた。

湾岸通りをビューンと走り、
まるで青空に向かって走っていくような感覚にとらわれたりしつつ、
横浜に着いた後に山下公園をブラブラ歩いた。
いつも氷川丸の所から入っていくんだけど、
今日は青空との対比が見事で、
暫く見入ってしまった程。
青空と海、青空と船って合うねえ。
氷川丸は竣工から今年で80年だそうだ。

八甲田雪中行軍遭難事件の生き残り 後藤房之助象

子供の頃『八甲田山』と言う映画を一度見、
とても楽しかったが、同時に怖さも感じた。
それからかなり時間が経ち、
もう一度見返したり、原作の小説『八甲田山死の彷徨』を読んだりしている内に、
どうしても現地を見たくてたまらなくなってきた。
勿論冬場に行くのは無理だから、
雪の無い季節に行こうと言う事で、
青森市内から三沢空港に帰る途中寄ってみた。



全く雪の心配の無い季節に行ったにもかかわらず、
観光地を招き入れる為、かなりの整備がされているにもかかわらず、
後藤房之助伍長の像のある場所は、
何となく不安になってしまうような雰囲気があって、
厳冬期にこんな所を行軍したら死んじゃうよなあ・・・と、
遭難した人々の事を想像して背筋が寒くなったのを思い出す。
現地に行くのは無理かもしれないが、
映画は見る価値があると思う。
かなりの豪華キャストで、それだけを目的でもいいだろう。

20年以上思い焦がれた地 音威子府

中学1年か2年と言うと、13歳か14歳の頃かな、
地図で北海道の辺りを何となく見ていた時、
私の心を大きく揺さぶる地名を視線が捕らえた。

音威子府

この4文字の地名を見た瞬間、

“ここに行きたい”と思ってしまったのだ。

特に何をしたい訳でもなく、ただ単に行きたいと。

それから事ある毎に“音威子府に行きたい”と

日記やブログで書き続けたのだが、

その機会が来ないまま25年もの月日が流れ、

立派な中年となってしまった私は遂に決断した。

“音威子府に行くぞ”と。

その思いを知っていた中学時代の同級生が

一緒に行ってくれる事になり、実現した。

羽田から旭川までは飛行機で、

旭川からはレンタカーで北上し、

段々と人の気配がなくなってくる道を走りながら目的地を目指した。



そして遂に・・・

音威子府のカントリーサインが！！

憧れ続けた地にたどり着いたのだ。

特に激的な何かがあるわけでもない道端で、

他の人には理解できないだろう感動を一人味わっていたなあ。

その様子を見て友人は笑っていたもん。

でもさ25年思い続けた地に行けたって事は、

本当に素晴らしいことだと思うんだよね。

お金さえあれば、時間さえあれば誰でも行ける所なんだけど、

単に通り道途中に寄っただけとは価値が違う。

大袈裟に言えば夢の実現だったんだから。

そんなこんなで無事音威子府に行き、

駅で名物の黒い蕎麦も食べ、大いに満足して帰って来た。
村の境にたどり着いた時の感動は多分一生忘れない。

川の町 広島



広島は川が多い街。

歩いていても車に乗っても橋を渡る事が多いし、
地図を見てもそう感じるだろう。

街中は人の手が入ったコンクリートの川だけでも、
少しだけ上流に行けば土も石も草も一杯の自然の川が見られる。

川ってとても不思議な存在で、

普段余り気にする事は無いんだけど、

一度眺めだすと、ポーっと時間を忘れて見続けてしまう。

水の流れが一定の形を保たないからか、

それとも他の理由があるからかわからないけど、

気付いたら1時間って事もある位。

ビルの上から広島の街を見ると、

流れと共に町が形成されているなって感じる事が出来る。

だからいつも広島に行くと川の画像を撮っている。

私にとってはそう言う存在の町でもある。

ブームが去れば・・・ 末森城址



末森城は前田利家を語る上で必ず登場する重要な史跡である事は間違いない。と言う事で行って来たのだが、観光客を受け入れる体勢になっていなかったのが残念だった。駐車場には倒木があったし、本丸に向かう道も何となく荒れていたし、（自然のままの方が楽しいという意見もあるけど）利家とまつが流行っていた頃はきっと来る人も多かったのだろうが、ブームが去ってしまえば誰も来ないんだろうなあ。

歴史好きの女性が歴女などと呼ばれて盛んにネットやテレビに出ているけど、私が末森城址を見学した時には、人っ子一人いなかったな。地味な史跡にお金をかけられない事情はわかるが、派手に整備することは無いから、もう少し綺麗にされていて欲しかったなあなんて思った。

ダチョウの攻撃は痛い



千葉県袖ヶ浦にあるダチョウ牧場。
私は初めてそこでダチョウに直接触れた。
柵越しだけど、柵なんか無いのと大して変わらない。
今まで動物園でオリの中にいるのは見た事があったけど、
随分な迫力だったな、流石に。
エサをあげられるようになっていて、
そのエサを持っている人を彼らは敏感に見分ける。
トトトトっと近づいてくると、くちばしで催促する。

それが痛い痛い。
先が尖っていないから、刺さったり怪我したりはしないけど、
ゴツゴツ当たるその衝撃がすごい。
複数羽に囲まれたら泣いちゃうよ。ははは
でも凄くかわいかった。
有料のエサだったけど、追加してあげちゃったもん。
また行きたいな。

鳥にエサを上げるのが好き ワサワサ寄って来る



旅先で鳥にエサをあげるのが大好きだ。
勿論かってにあげるのではなく、
エサが売っている所で買い、あげるようにしている。
今までアチコチで何円使ったか記憶に無いくらい
私はエサを買ってきたけども、
その中で自分なりに楽しかった場所のベスト3を挙げよう。

第3位

宮城県松島の観光船

海上を飛んでいるカモメにあげられるのが楽しい。
他でもやっている所があるけども、
なぜか松島のは楽しさが大きかった。

第2位

北海道屈斜路湖畔

真冬の極度に寒い時期、白鳥がワンサカいて、
エサをあげるとワサワサ寄って来る。
手から直接食べる豪の者も多くて、
ついつい買い過ぎてしまう私が出た。

第1位

栄光の1位は北海道濤沸湖（とうふつこ）。
網走の近くで、駅で言うと北浜かな。
近くの店でパンの耳が100円で売っていて、
私はそれを1日3000円以上買った経験もある。
白鳥・カモメ・鴨・カラス・鳩
色々な鳥が集まってくるのも楽しい。
ちなみに画像の場所は上記いずれでも無い。
茨城県水戸の千波湖である。
鯉・白鳥・鴨が寄って来る。

何だこの黄色いブニョブニョは？ キノコ？



東京都桧原村にて撮影。
朽ち果てそうな橋の上で、何やら黄色のものが地面にあるのを見つけた。

近寄って撮影してみた。

何この黄色のブニョブニョ？
見えるかな。

苔？

キノコ？

毒だったら嫌だから触らなかったけど、
なんかキクラゲのような感じもした。
色が違うけどね。
自然の多く残る地に行くと、
東京都心部じゃ見られないものが見られて面白い。
やっぱり旅はやめられない。

陸のくらげ 何だか切ない

磯が好きだ。

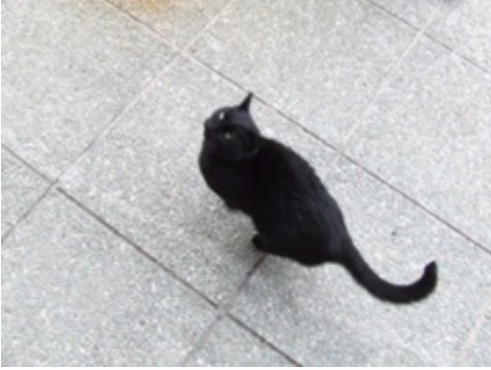
引き潮であらわになった海底を歩きながら、潮溜まりを見、小さな生物がいるのを確かめるのは、この上なく楽しい遊びだと私は思う。



しかし陸に打ち上げられたくらげは悲しい。デロンと横たわり“もう駄目だ”と言っている様で、いつもそう言うのを見ると海水をかけてしまう。出来れば復活してくれー！って。持てるサイズだったら水がたまっている所に運ぶ事すらある。もしかして生きていて刺されたら嫌だけど、そんな事よりも放っておけない気持ちが大きいのだ。でもそうやって水に入れたり水をかけたりしても、デロンとしたくらげはデロンとしたまま動かない。何だか切なくなる。

名寄で擦り寄ってきた黒猫 去った後には・・・

中学の頃に地図で見た音威子府と言う地に、
なぜか憧れ続け、20年以上経って訪れてみた。



音威子府を堪能した後、
宗谷本線の駅を1つ1つ訪れてみたのだが、
名寄駅に寄った時、どこから現れたかわからないが、
猫が私に寄り添ってきて離れなかった。
友人も隣にいるのになぜか私だけに。
とても可愛くなってしまい、
エサでもあげたくなかったが、生憎何も持っていなかった。

身体を撫でてしていると、眠りそうになっていたが、
突然何かを思い出したようにハッと、
私の元を離れていった。
私の方も急に離れられたものだから、
何だか寂しくなってしまう、暫く目で追ったが、
物陰に入り遂には見えなくなってしまった。
その後気付いたのだが、
私の黒いズボンには見事な足跡が幾つも残っていた。
“ああ～・・・”と思ったが、可愛かったから良し。
猫の記憶と共に名寄駅周辺の光景は忘れないだろうな。

小田原城のウメ子 もういないんだよなあ・・・

小田原は東京からも近く、気軽に行ける事もあって、歴史好きな私はよく城見学をしている。他にも名物であるかまぼこを買ったり、石橋山古戦場跡を見学したりもして、私の中で日帰りで楽しむにはかなり良い場所と位置づけている。



かつて小田原城内にはウメ子という象がいた。いつ行ってもものっそりのっそり同じような姿で観光客を和ませてくれていたんだけど、2009年の9月に亡くなってしまったのが残念。推定62歳と言われ、人間で言えば100歳を超えていたとの事。長い間狭い所に入れられて可哀想とも思うけど、小田原城とウメ子は私にとってセットだったから、ウメ子がない小田原城に行く気になれなくなってしまった。それだけ大きな存在だったんだなあ。これから小田原城に行く度、“あそこにはウメ子と言う象がいたんだよ”って懐かしむんだろう。でもそうやっていつまでも忘れない事も大事だと思う。ウメ子はいつまでも人の心の中に行き続けるのだ。

岩間に咲くシナノコザクラ 感動したなあ



水を求めて長野県富士見町を訪ねた時、
地元の人が色々案内してくれたのだが、
清流に手を付け、その冷たさを堪能していると、
私を呼ぶ声がした。
しかも何か切迫した雰囲気です。

何かあったのか？と心配したが、
“ここを見て下さい”と興奮気味に指差した先を見ると・・・
岩間に咲く高原植物シナノコザクラが見えた。

とても鮮やかなピンクが眩しく、
暫く見とれてしまった。
何だかわからない感動が身体から生まれ、
嘘でも何でもなく涙が出そうになってしまった。

地元の人によれば、何度もその場に訪れてはいるけど、
シナノコザクラを見たのは初めてとの事。
マニアに荒らされないよう場所は内緒にしておいて下さいと言われたが、
一人では行けないような場所だし、
そこが正確にどこかもわかっていなかったから、うっかり話す事もなく安心。

それにしても自然の色って凄いね。
PCでも絵の具でも決して表現できない艶やかさ。
本当に見ていて飽きなかった。
もう一度みたいなあ・・・

ナマズよナマズよナマズさん



いつの事だったか、
急にナマズが食べたいと思い、
自転車で5時間近くかけて
東京から千葉県印旛沼まで走ってきた。
私の自転車は特別なものではなく、
1万数千円のmそこら辺で売っているものだったから、
往路はまだしも疲労で復路が大変だった。
肝心のナマズはというと、
脂がなさ過ぎて、あっさりし過ぎと言う感じかな。
刺身も食べてみたけど、正直物足りない感じ。
逆に揚げ物だとその淡白さが生きて美味しかった。
印旛沼はウナギや鯉も食べる事ができるから、
興味のある人は一度行ってみたいかも。
私ももう一度行ってみたい。
自転車ではもう嫌だけど。ははは

牛すじが柔らか過ぎて幸せ～

広島のお好み焼き屋で

『すじポン』なる品がメニュー表に載っていて、
なんだそりゃ？食べてみようと言う事になった。



運ばれてきたものを見ると、
牛すじを柔らかく煮込んだものを
ポン酢ベースのダシで食べる感じだった。
関東にはこういう食べ物あるのかな？
牛すじ自体おでん以外で余り見ないけど。

早速口に運んでみた。

ムニユムニユ。

それでいて噛み切れない訳ではなく、
何だか噛むのが楽しくなってくる。
ポン酢の酸味もとてもマッチしていて、
丼いっぱい 鍋いっぱい食べたい感じだった。
見た事・聞いた事が無いものを注文するのって
読んだ事無い作家の作品を買うのに似ているけど、
勇気を出せば新しい世界が広がる時もあるんだよね。
今度家でもやってみようかな。



白玉が好き。

デザートに白玉が添えられているだけで
テンションがアップしてしまう程に。

何がそんなに好きなんだろう？

味は別に大した事が無いと思うから、
食感のみが私をここまで魅了するのだろう。

カキ氷では画像の宇治金時が一番合うと思う。

ちなみにそのまま食べるのも好き。

黒蜜か餡がやっぱり合うね。

今度自分で沢山作って主食にしようかな。

ナンって美味しいね 何にでも使える

近所にはインド系の方が経営されているカレー屋が2件あり、そのいずれも美味しいから、よく食べに行くのだが、今回初めて注文したメニューが美味しかったから、紹介しちゃうと思う。

場所は東京都江東区の千石と言う場所で、東陽町と住吉の間位にある。

四ツ目通り沿いだからわかり易いかな。

店の名前は『ルンビニ 東陽町店』。

カレーも種類が豊富でとても美味しい。

中にはこれがカレーなの？と思うものがあって、色々注文するのが楽しい。

その中で注目したいのがナン。

この店のナンは少し薄めで、味はサッパリ系。

私は厚いのが余り好きでは無いから、好みである。

ナンも種類が多くて、スウィートナンとかチーズナンとか、そのままでもOKなものが揃えられている。



今回はジャガイモ入りナンを紹介しよう。

読んで字の如くジャガイモが何に挟まっている。

ナンサンドと言う感じかな。

ほんのりカレー味で、フライドオニオンの甘味があり、ジャガイモの食感も楽しめる。

カレーにつけて食べるというよりは、そのまま食べたい味。

ちょっとお腹が空いた時に最高かも。

持ち帰って食べたいけど、やっぱりアツアツがいいから、食べたい人は是非店に！！

ちなみにジャガイモ入りナンは、画像の感じで350円だったかな。

安くてありがたいね。

日本三大焼きそば 1ヶ月で制覇

日本三大焼きそばを制覇しようと、
少し前に1ヶ月で全て食べに行く無茶をした。
群馬県太田市で最初の1つを食べたのがきっかけだった。



太田市に行くと言う事で何か良い店はないかなと、
ネット上を徘徊していると、
焼きそばが有名と言う事がわかった為、早速食べに行った。
モニユモニユした太目の麺で、正直余り美味しいと思わなかった。
帰ってから更に調べると、
日本三大焼きそばなるものが存在すると知った。
群馬県太田市・秋田県横手市・静岡県富士宮市の3市で
それぞれ特徴のあるものを作っているとの事だった。
友人と2人“これはやるしかない”と、直ぐ様計画をたて始めたが、
東京に住む我々にとって秋田県横手市が遠過ぎた。

そこで考えた。
“富士宮が先なら楽だけど、横手に行かなくなる可能性がある”
“だったら直ぐに横手へ行ってしまおう”と言う結論に達したのだ。
新幹線を手配し、いざ秋田県横手市へ。
大館で新幹線を降り、在来線で横手まで行ったけど、
いやあ遠かったなあ・・・



横手の焼きそばは少し味が薄く、
目玉焼きが上に乗っていて、付け合わせが福神漬けと言うのが特徴。
(福神漬けじゃない店もあったけど)

何店か回って食べたけど、まあそこそこの味だった。

最後は静岡県富士宮だったんだけど、
富士宮へは何度か行った事があったものの、
焼きそばを意識した事がなく、
“そう言えば焼きそばの幟を見たな”と言う感じの認識度だった。



焼きそばの特徴としては麺が固めで、
肉カスと魚の粉を振り掛けるのが特徴。
何店か回って味の違いを確かめたけど、
まあこんなもんかなって味だった。
三大焼きそば全てを食べて思った事は、
焼きそばを目的として旅をするのは間違っていると言う事。
焼きそばは焼きそばでしかない。
それぞれ特徴はあってもね。
特に夜食として食べるのは勿体無い。
せっかく旅をするなら他のもので満腹にしたい。
誤解のないように書いておくけど、
決して不味い訳じゃないんだよね。
でもやっぱりメインにはなり得ない。

ちなみに私が3つの順位をつけるなら、
横手>富士宮>太田かな。

名水のある所に美味しいこんにゃくあり

東京都檜原村は島嶼部を除いて都内唯一の村。
ツーリング等で行く人は多いけども、
奥多摩に行くついでとか、
逆に奥多摩から帰る時に通るとか、
“檜原村行こうぜ！！”と言う感じで、
メインの目的地にする人は少ないのではないだろうか。
そんな檜原村は水の美味しい所でもある。
わさびが名産品と言う事だけでそれを証明できる。

村各地に建つ食べ物屋には、
名水で打ったうどんや、名水で作ったこんにゃくなどが売られていて、
旅人や地元の人々の舌を楽しませている。



私もせっかくだから刺身こんにゃくを食べてみた。
瑞々しいその姿は、見るだけで楽しくなるような感じ。
味の方はクセが無く、醤油などつけずそのままでもOKだった。
噛み応えもあり何皿でも食べられそうな感じ。
やっぱり水が違うところも違うんだなと実感できた。
こんにゃくって正直余り好きとは言えない食べ物だけど、
名水がある地方では食べても良いかなって思う。

固いって言うな！ コシがあると言え！ 吉田のうどん

山梨県富士吉田市には

『吉田のうどん』と言う食べ物がある。

平たく言えばうどんなのだが、個性豊かだ。

まず麺が太め。

そして物凄いコシで、噛み応えが凄い。



道の駅で初めて食べた時は大して美味しいとは感じなかったけど、

地元の人に連れて行ってもらった店で食べたものは

味・コシともに抜群で、もう一度食べたいと思った。

特に冷やしたぬきはお気に入りになったから、

それだけを食べに現地へ行ってもいいとさえ思う。

食べた店の名前忘れちゃったなあ・・・

裏道みたいな細い所をクネクネ走ってたどり着くから、

余所者にとっては迷い易いかも。

勿論他の店でも美味しい所は沢山あるだろうから、

富士山の迫力ある姿に圧倒されながら、

強いコシを楽しんでみて欲しい。

店の名はあのアニメの登場人物にもなった

長野県富士見町役場には知り合いがいる。
その関係でアチコチ案内してもらったり、
珍しい食べ物を食べさせてもらったり、
とても楽しい体験を何度もさせてもらった。
ある時その役場の方が
“どうしても食べさせたいものがある”と連れて行ってくれたのが
『おっこと亭』と言う有名な蕎麦屋さん。



きりだめ入りもりそばと言うものを注文。
桐の箱にドカンとそばが入っているダイナミックなメニュー。
最初見た時は“2人でこれは多いな・・・”と思ったけど、
コシがあってそばの風味も豊かだったから、
どんどん胃の中に入れてしまい、気づけば完食していた。
そうそう、アニメの登場人物の話だけど、
『もののけ姫』に登場する『乙事主』がそれだ。
宮崎駿監督が昔富士見町を気に入っていて、
別荘を持っていた事から使われる事になった。



ちなみに富士見町には『烏帽子』と言う地名もあるが、
そう、それは『烏帽子様』と言うキャラに使われるのだ。

香ばしくてボリボリの食感がたまらん 焼きカシュー

北海道に行ったらいつも買うものがある。
かに？いくら？乳製品？

違う違う。



私が必ず買うものは焼きカシューナッツなのだ。
しかもセイコーマートで売っているもの限定。

前に網走を見学した後、北浜駅に寄って、
その直ぐ近くの店舗で何気なく買ったのが始まり。
“焼きカシューってなんだ？”って感じで。
それ以来いつも店に売っている物は全て買い占める。
お土産にもする。
甘味があって香ばしくて食感も良くて、
こんなに楽しませてくれるスナックって無いと思う。
ただ焼いてあるんじゃないかと、周りに衣みたいなのがついているのだ。
ああまた北海道に行ったら大量に買って帰ろう。
ただしナッツだからカロリーは高いし、
多分商家も余り良くないと思うから、注意は必要だね。

キトキト！ ホタルイカ



ホタルイカと言えば富山。
富山と言えばホタルイカ と言う事で、
現地まで行って新鮮なのを食べてきた。
その地の名産品を現地で食べるって事は、
私にとってこの上ない贅沢に思える。
同じ美味しいでも一段上に感じられるし。
サッと注文してスッと出てきた品は
見るからに美味しそうで、
食べるのが勿体無いと一瞬思ってしまった位だ。
なぜなら食べ始めてしまえば直ぐになくなってしまうから。
口に入れた瞬間旨みがジュワっと広がり、
あっという間に一皿平らげてしまった。
ちなみにタイトルのキトキトは、
富山の方言で新鮮と言う意味。
飛行場の壁にも書いてあった記憶がある。

いやぁ美味しかったなあ・・・
もう一度食べたいなあ。

しきしま 世界最大の巡視船



1992年就航。

巡視船としてはあり得ない武装が施してあり、
対テロ想定を想定されていて、
実際この船が作られた背景には
プルトニウム運搬船護衛と言う大任があったのだ。
実際に見てもかなり大きい。
海上保安庁の船はそれ程大きなものが無い中、
異常な大きさと言ってもいい位。
ヘリコプター二機も搭載されている。
横浜港にて撮影。

路面電車大好き 高知



路面電車が好き。

街の中を走っている路面電車を見ると、
それだけで楽しくなってしまう。

今まで各地に旅してきたけど、
帰ってからデジカメの画像を整理すると、
路面電車が走っている街を撮影した画像割合が
半端じゃなく多いのが笑える。
ここに掲載したのは高知市内の画像。

いつか日本全国に走る全ての路面電車を見て、
撮影し残しておきたい。

路面電車大好き 広島



広島は路面電車の街と言っても過言ではない。
地下鉄が無い分大活躍している。
市内は定額で移動できる為、
地元民にも観光客にも使い勝手がいい。
広島の路面電車の楽しい所は、
各地で使っていた車両を走らせている所。
例えば京都市電や福岡の市電など、
懐かしく思う人もいるのでは無いだろうか。
最新の車両は格好良くて、中は快適だけでも、
色々な車両を走らせる事を止めないで欲しいな。
少し前までは原爆の時被爆した車両も走っていたみたいだけど、
今はどうなんだろう。

皆さんも広島に行ったら是非路面電車に注目して欲しい。
私もここで色々な車両を紹介していこうと思っている。
画像が稲荷町付近を走る5000形。
ドイツのシーメンス社製。

路面電車大好き 広島 ②



この画像は広島路面電車だが、
かつて福岡市電だった車両を使っている。
こう言うリユースって素敵だね。
前に地元で乗った事ある人が、
広島に行った時、その車両に出会えるなんて最高だ。
見た瞬間懐かしい想いがこみ上げるんだろうなあ・・・
いつまでもいつまでも走らせて欲しい。

路面電車大好き 広島 宇品港



路面電車を沢山見たいなら
広島宇品港に行くべきである。
そこにはいつも複数台の車両が停まっているし、
着く直前にカーブがあるから、
何となく格好良く見えるポイントなのだ。
ただし路面電車宇品まで行くのは結構キツイ。
電停が多いからである。
広島駅からだと紙屋町で乗り換えだから、面倒だし。
でも料金は150円とリーズナブル。
ちなみに宇品港からは各地へ船で行ける。
呉にも行けるし、江田島にも行けるし、松山にも行ける。
松山まで行く途中には音頭の瀬戸が見られたり
自衛隊の観戦が見られたりするの面白い。

のどかな雰囲気 銚子電鉄外川駅



犬吠崎に向かう途中、ついでに見て行こうと、
銚子電鉄外川駅を見学した。
銚子電鉄は万年赤字で、
“電車の修理代を稼がなければならないんです”と、
濡れ煎餅の販売をした事がニュースになり、
支援活動が始まって生き長らえたと言うエピソードがあるが、
未だ経営は苦しいままである。
外川駅はNHKの朝の連続テレビ小説『濡れつくし』の舞台にもなり、
その事を書いた看板が立っているが、
かなり古くなっていて、逆に切なさを感じる。
駅舎は古く、自動改札も無く、
現代からは取り残されたような雰囲気があるが、
このような駅舎は貴重である為残って欲しい。

銚子電鉄の濡れ煎餅は私もかなり好きだから、
バンバン買って支援したいと思う。

宗谷本線 紋穂内（もんぼない）駅

音威子府駅から旭川駅に戻る途中、
どうせだから駅に寄れるだけ寄ってみようと言う事になり、
宗谷本線の駅を見学して来た。



寄る駅寄る駅で衝撃を受けながら進んでいくと、
紋穂内（もんぼない）駅で絶句してしまった。
貨車駅と言う事にはあまり驚かなかったけど、
塗装の剥げ具合とか、寂れ方が尋常じゃなくて・・・
今は貨車駅だけでも、かつては駅舎があったんだろうなと予測できる、
レンガ造りの土台があるのも、寂しさを感じた。
晩秋の夕暮れにこの駅で一人電車を待っていたら、
きっと悲しくなってしまうんだろうなあ、などと想像しつつ、
色々な角度から駅を眺めてきた。
もう二度と紋穂内駅には行かないかもしれないから、
行って画像を撮れた事、見学できた事は人生における財産の一つになったな。

夢見乃水 ゆめみのみず



夢見乃水と作家の村松友視さんによって命名されたその水は福島県喜多方市山都地区に湧き出している。

喜多方市山都地区に行くにはかなり苦勞するけど、名物のそばの美味しさや、鄙びた雰囲気素晴らしく、時間をかけて行っただけの価値は見出せると思う。

この湧水はトンネル工事で枯れてしまうのでは？

そんな風に思われた事もあったけど、

無事に湧き出し続けていて、地元の人・ファンを安心させた。

口当たりが軽く、後味が爽やかで、

かなり飲み易い味だと私は感じた。

なる程この水ならそばを打っても美味しいだろうなと想像もできた。

湧水量がそれ程豊富でもなさそうだから、

ボトリングして売り出す事は難しいだろうが、

いつでもこの水が飲める暮らしは幸せだろうなと思った。